

<金標準、強気の域で押し目買い方針>



5月のゴールデンウィーク中にNY金が1760ドルを維持しながら1800ドルを上回る動きを見せながら、週末の雇用統計では非農業部門就業者数が事前予想の100万人増を大幅に下回る26.6万人増となり、FOMCの緩和策継続やバイデン大統領の4兆ドルを超える景気対策を肯定化する動きに結びつき、金利低下のドル安を受けてNY金は5月に入り100ドルを超える上昇を見せています。そのため金標準先物は6200円を回復すると3日間で200円を超える上昇を示しており、目先は利益確定の値動きに注意したい。

ただ週末に雇用統計の発表が終わり、今週11日の中国の消費者物価指数、生産者物価指数を皮切りに12日米国の消費者物価指数、13日は米国の生産者物価指数の発表を控えインフレ指数が上昇を示す様であれば、再度金標準は買われる動きを示す可能性は高まると思える。
(2021年5月9日記載)

<テクニカル>

相対力指数(9日)で見た場合は、相対力指数が買われ過ぎレベル70%を超えて80%まで上昇している。特に相対力指数における80%以上は強気の継続を示した値動きの可能性が高まるため、安易な売り急ぎには注意が必要である。また相対力指数の上昇ラインを相対力指数が維持し続けている間は、押し目買いに徹するのが良い結果に結び付くことから、上昇ラインを相対力指数が下回った場合は、基調が売りに転じるサインと予想する。